

令和7年度 学校経営計画・学校評価

■4月8日(火)提出

■10月2日(木)提出

■3月13日(金)提出

学校番号	15	高知工業	高等学校	課程	全
------	----	------	------	----	---

高知県の教育の基本理念	(1)学ぶ意欲にあふれ、心豊かでたくましく夢に向かって羽ばたく人 (2)郷土への愛着と誇りを持ち、高い志を掲げ、日本や高知の未来を切り拓く人 (3)多様な個性や生き方を互いに認め、尊重し、協働し合う人	スケール・ミッション	企業や関係機関との連携を通して、高い専門知識や技術を習得したスペシャリストを養成し、次世代の産業の担い手を育成する。 ものづくり教育や探究型学習を通して、工業分野の高い専門的知識や卓越した技術を身に付け、確かな判断力・実行力を持って産業界をけん引するリーダーとなる人材を育成する。
スクール・ポリシー	【アドミッション・ポリシー】(入学受け入れ方針) ○主体的に物事を考え、自ら学ぼうとする生徒を募集します。 ○実習やものづくりに対する探究心や資格取得に向けて熱意のある生徒を募集します。 ○基本的生活習慣が身につけ、部活動、地域貢献活動などにも積極的に取り組んだ経験があり、入学後も継続的に活動しようとする生徒を募集します。 ○探究・協働的活動に興味があり、他者と積極的にかかわろうとする生徒を募集します。 ○自己の進路実現のために継続的に努力できる生徒を募集します。 【グラデュエーション・ポリシー】(育成を目指す生徒の資質・能力) ○確かな学力を備え、自ら学び、考え、行動する自立力(自らの力)を育成します。 ○身に付けた高い専門的知識や技術等を生かした創造的思考力と実践力を育成します。 ○基本的生活習慣を身に付け、健康でバランスの取れた気力と体力を育成します。 ○探究・協働的な学びから得られる課題解決力とコミュニケーション力等を育成します。 ○進路実現に向け、地道に努力できる継続力を育成します。	【カリキュラム・ポリシー】(教育課程の編成・実施方針) ○普通科目と工業科目を両輪とした学習活動に意欲的に取り組みます。 ○各種の資格取得や各学科の特色ある学びを通じて習得した専門的知識や技術をもとに、工業分野の諸課題に対して創造的に解決に取り組めます。 ○基本的生活習慣を確立し、部活動や特別活動、地域貢献活動等により取り組みます。 ○本校独自の探究型学習「イノベーションKT」を核に、地域や企業等と協働した学びに取り組めます。 ○早期に卒業後の進路を見据え、キャリア教育的諸活動に取り組めます。	

学校関係者評価	
【学力の向上】	評価 【 B 】
生徒によるアンケートでの評価は目標より低い数値となっているが、アンケートの取り方によっても左右される数値であることや基礎力診断テストにおけるD層の減少、C層以上の増加という結果を考慮すれば、目標をほぼ達成している。専門教科の学力についても評価対象にしてよいのではないかと。資格取得による補習時間もかなりかけているので、専門高校としての学力向上は一定評価されるべき。	
【社会性の育成】	評価 【 B 】
就職内定率は25年連続の100%となり、就職希望者は第1希望の企業にほとんどの生徒が就職をすることができるとともに、大学等の進学を含めて生徒の進路実現にしっかりと取り組んでいる。離職率は目標値には達していないが、全国平均に比べ低いことから、キャリア教育についても充実していると考えられる。	
【チーム学校】	評価 【 B 】
進路実現98.9%、資格取得、部活動の全国大会出場等、取組の結果が出ている。県内の学校で不祥事案件が起っており、県教育委員会が記者会見をしている姿を見ることが多い中、不祥事案件が起っていない。不祥事防止研修や服務規律の徹底を継続してほしい。残念ながら長時間勤務者数が減っていないが、生徒が活躍している関係で増加している、うれしい悲鳴と考えられる。しかし、具体策を検討し、改善に努めてほしい。	

(評価)A:目標を十分に達成 B:目標をほぼ達成 C:やや不十分 D:不十分

重点項目	育成を目指す資質・能力【P】	現状と目標(評価指標)	具体的な取組内容【D】	中間評価【C】	中間評価後の取組内容【P・D】	年度末評価【C】	見直しのポイント【A】
学力的向上	★確かな学力 ○基礎となる知識・技能 ○思考力、判断力、表現力 ○生涯にわたって学び続ける意欲 ★自己の将来とのつながりを見通した学び ○社会の形成に主体的に参画するために必要な資質・能力 ○キャリアデザイン力(やりぬく力)	○授業改善 「学校の授業では、学習のねらい(めあてや目標)が示されている」R6(86.1%)→R7(88%)以上 ○C層以上の生徒の増加 ・1年:1回目(68.4%)→2回目(74.0%)以上 ・2年:1年次(73.8%)→(78.8%)以上 ○授業外学習時間の増加 「ほとんど学習しない」 ・1年:(45%)以下 ・2年:1年次(45.7%)→(40%)以下 ○「将来の可能性を広げるために勉強を頑張っている」 R6(86.97%)→R7(90%)以上	○各授業で「めあて、思弁表、振り返り」を取り入れた授業改善に努める。 ○主要教科の週末課題、週明けテスト、小テスト、補力補習、デジタルドリル「すらら」を実施し、学力の定着を図る。 ○資格取得、検定受験に対して、補習・自主学習を充実させる。 ○DXハイスクール事業を通じたものづくりによる情報解析能力と問題解決能力の育成する。	B ○授業改善 「学校の授業では、学習のねらい(めあてや目標)が示されている」R6(86.1%)→R7 1回目(88.7%) ○C層以上の生徒の増加 ・2年:1年次(73.8%)→1回目(63.1%) ○授業外学習時間の増加 「ほとんど学習しない」 ・1年:1回目(47.3%) ・2年:1年次(32.8%)→1回目(53.1%) ○「将来の可能性を広げるために勉強を頑張っている」 R6(86.97%)→R7 1回目(92.4%)	○年度当初からの具体的な取組内容を継続して取り組む ・2年生の中だるみと、3年生の進路確定後の気の緩みが出ないよう、授業を大切に、学び続ける姿勢を定着させる ・資格取得の推進はこれまでどおり推進していく	B ○授業改善 「学校の授業では、学習のねらい(めあてや目標)が示されている」R6(86.1%)→R7 2回目(85.9%) ○C層以上の生徒の増加 ・1年:2回目(76.4%) ・2年:1年次(73.8%)→2回目(85.5%) ○授業外学習時間の増加 「ほとんど学習しない」 ・1年:2回目(48.4%) ・2年:1年次(45.7%)→2回目(56.3%) ○「将来の可能性を広げるために勉強を頑張っている」 R6(86.97%)→R7 2回目(88.97%)	○DXハイスクール事業を通じたものづくりによる情報解析能力と問題解決能力の育成 ・各種検定試験、ものづくり大会、各種コンテストへの主体的な挑戦 ・学力向上プランでPDCAサイクルを回し、第2回基礎力診断テストのD3層を0にすること、C層全体の人数を本年度以上にすることを目指す
	社会性の育成	★豊かな心、多様性・包摂性の尊重 ○豊かな人間性・道徳性・社会性 ○他者への思いやり(地域・社会貢献、ボランティア活動等も含む)	○進路指導の充実 就職内定率100%(現在24年連続)を継続し、国公立大学合格者数を20名以上(R6:18名) ○就職後1年目の離職率 R6(2.2%)→R7(2%)以下 ○部活動・学級活動・各企業連携等 「立場や年齢、考え方の異なる相手でも、その意見を聞き、理解しようとしている」 R6(95.5%)→R7(96%)以上	○探究学習の推進(自らの力)の向上 仲間づくり研修や発表活動、製作物の共同作成により協働力を、2年生は進路実現に向け企業見学や企業体験を通して社会性を3年生は各科目で課題研究による課題解決力を身に付ける。 ○進路指導の充実 キャリアガイダンス、インターンシップ、企業見学、オープンキャンパス、進学補習等 ○部活動・学級活動・各企業連携等 「立場や年齢、考え方の異なる相手でも、その意見を聞き、理解しようとしている」 R6(95.5%)→R7 1回目(95.2%)	B ○進路指導の充実 就職内定率98.2%(9月末時点) キャリアガイダンス、インターンシップ、企業見学、オープンキャンパス、進学補習等により、就職試験の結果待ち ○部活動・学級活動・各企業連携等 「立場や年齢、考え方の異なる相手でも、その意見を聞き、理解しようとしている」R6(95.5%)→R7 1回目(95.2%)	○イノベーションKT(探究学習)など、本校の生徒の社会性育成のための取り組みを計画に沿って組織的に実践していく ・取組計画等について、学校外の方から助言をいただく機会を設け、今後の活動に生かしていく	B ○進路指導の充実 本年度も就職内定率100%を達成し、国公立大学合格者数(R6:18名)R7:16名 ○就職後1年目の離職率 R6(2.2%)→R7(2.4%) ○部活動・学級活動・各企業連携等 「立場や年齢、考え方の異なる相手でも、その意見を聞き、理解しようとしている」 R6(95.5%)→R7 2回目(95.7%)
取組項目	地域協働学習	【取組のねらい】 ○生徒の社会的自立・社会参画に必要な資質・能力の育成 ○地域・関係機関との連携	○地域貢献活動の推進 「地域や社会をよくするために、地域貢献活動やボランティア活動など、実際に行動している」 R6(38.7%)→R7(43%)以上	B ○地域貢献活動の推進 「地域や社会をよくするために、地域貢献活動やボランティア活動など、実際に行動している」R6(38.7%)→R7 1回目(35.99%) ○DX事業の取組 企業によるデジタル機器の講義や実技、校外でのものづくり教室を行い生徒の興味関心が向上	○今後も地域や関係機関と連携し、社会貢献活動に参加していく。	A ○地域貢献活動の推進 「地域や社会をよくするために、地域貢献活動やボランティア活動など、実際に行動している」R6(38.7%)→R7 2回目(39.4%) 目標値には達していないが3学期以降のボランティア活動に参加した生徒が多いため地域貢献は一定数達成できている ○DX事業の取組 企業によるデジタル機器の講義や実技、校外でのものづくり教室を行い生徒の興味関心が向上	○生徒会を中心とした地域貢献活動やボランティアへの参加 ・課題研究等による地域からの依頼に対して課題解決となる製作を行う。
	教科横断的教育	【取組のねらい】 ○学習の基盤となる言語能力や情報活用能力の育成 ○各教科の学びを実社会での課題発見や解決に結び付ける力の育成	○探究学習の推進(自らの力)の向上 「学校の授業では、学んだ知識をもとに自ら考え、まとめたり、発表したりする機会がある」 R6(87.7%)→R7(88%)以上	A ○探究学習の推進(自らの力)の向上 ・各教科、科目で得た知識・技能・技術を生かした課題解決学習を行う。 ・課題発見力、課題解決力、コミュニケーション力等を育成する。 ○DXハイスクール事業を活用し、情報解析能力の向上させる。	○探究学習の推進(自らの力)の向上 「学校の授業では、学んだ知識をもとに自ら考え、まとめたり、発表したりする機会がある」R6(87.7%)→R7 1回目(91.1%) ○DXハイスクール事業の推進 専門教科の中に「情報Ⅱ」の内容を取り入れ、データサイエンスや統計、解析等の能力向上につなげた	○年度末にある課題研究発表会に向け、各科の知識、技術を生かした製作物の製作や発表に向けた資料のまとめを進める。	A ○探究学習の推進(自らの力)の向上 「学校の授業では、学んだ知識をもとに自ら考え、まとめたり、発表したりする機会がある」 R6(87.7%)→R7 2回目(86.7%) ○DXハイスクール事業の推進 6年度購入した機器を活用し、デジタルものづくりに活かす、「情報Ⅱ」の履修率は34.5%とほぼ目標値を達成した。

チーム学校	取組のねらい【P】	現状と目標(評価指標)	具体的な取組内容【D】	中間評価【C】	中間評価後の取組内容【P・D】	年度末評価【C】	見直しのポイント【A】	
チーム学校	学校の振興	★学校の魅力化・特色化 ○教員の指導力向上 ○イノベーションKTを基軸に生徒の生き力を高める ○希望の進路を実現させる ○部活動を充実させる ○専門高校・教科の魅力化	○進路実現98%以上(R6:98.1%) ○各種資格取得や部活動の充実 ・ジュニアマイスター取得80名以上(R6:76名) ・部活全国大会出場5以上(R6:全国5) ・ものコン等の四国大会出場5以上(R6:四国5) ○学校運営協議会等の実施回数 2回(R6:2回)	A ○教員の専門力向上をはかる研修会への参加 ○ものコン、技術大会、資格試験への取組の充実 ○ホームページの充実 ○高校説明会への参加	○四国工業教育研究協議会へ全教員の参加 ○各種資格取得や部活動の充実 部活動の四国大会11競技出場、全国大会5競技出場、空手道部女子団体組手ベスト16、ものコン四国大会5部門出場、測量部門2位、旋盤部門3位、木材加工部門で5・6位、化学分析部門5位の結果、旋盤・測量・化学分析部門が全国大会に出場 ○高校説明会に県内中学校50校訪問	○各種資格試験が始まるので取得に向けた取り組みを行う ・部活動や技術大会の取組の充実 ・進路指導の充実	A ○進路実現(R7:98.9%) ○各種資格取得や部活動の充実 ・ジュニアマイスター取得(R7:102名) ・ものコン全国大会3部門に出場し、測量部門3位、旋盤部門4位と健闘した。	○部活動の更なる充実 ・各種コンテスト・競技大会・資格試験への挑戦者増と合格者増を図る ・同窓会との連携
	不祥事防止	★教職員の倫理観の堅持 ○不祥事防止対策の徹底 ○よりよい職場風土づくり ○教職員のメンタルヘルス ○不祥事発生時の適切な対応	○教職員による不祥事案を0にする。 ○校内研修の実施回数3回以上 ○不祥事防止委員会の実施回数3回以上	B ○不祥事防止委員会を学期に1回程度開催し、現状の把握と防止に努め、職員会議等で注意を促す。 ○校内研修の実施(飲酒運転、ハラスメント、公金等不正処理に関する研修)	○校内研修の実施3回 ○不祥事防止委員会の実施2回 各学期ごとに追加の研修を行う。 ○適宜、過去の服務通知の周知	○職員会議等で不祥事報道等の連絡と注意喚起 ・校内研修による不祥事内容の確認と防止策の徹底	A ○校内研修の実施4回 ○不祥事防止委員会の実施3回 各学期ごとに追加の研修を行う。 ○適宜、過去の服務通知の周知	○継続した校内研修の実施 ・アンケートを基に職員の意識改革を進める。
	働き方改革	★長時間勤務の解消 ○業務の精選、業務分担を図り時間外勤務時間を減少させる。	○超過勤務者が多くおり、業務に偏りがある。 ○月80時間超え R6(13名)→R7(10名)以下	○勤務の集中する時期を判断し、見直しを立て、業務の分散を図る。 ○ICT機器を利用した授業改善や教材の共有を図る。 ○部活動の複数顧問制による分散	C ○超過勤務者が多くおり、業務に偏りがある。業務支援員に関し、人物にも恵まれ非常に好評であり、業務負担が軽減されたという意見が多い 部活動指導員の配置や複数顧問制により、顧問の指導負担を軽減できたが、全国総体に参加した部活動が複数あり、特定の教員の夏の間勤務が増加した ○月80時間超え R6(13名)→R7 8月現在(10名)	○職員朝礼を週2回にし、掃除の回数を減らす ・講師の職務内容周知による分散 ・自動採点システム活用推進による時間短縮 ・全職員の勤務時間外在校時間周知による協働体制の構築	C ○業務支援員の活用による教員の負担軽減 ○運動部の県体や全国・四国大会、技術競技会やコンテストの指導のため、時間外勤務が増加した教員がみられた。 ○月80時間超えR7(17名)	○業務の精選と分担 ・業務支援員の継続 ・年休等の取得率向上